

J O F I 東京通信

第 13 号 2025 年(令和 7 年)1 月 5 日発行
<https://jofi-tokyo.org/>

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌

目次

今年度の新たな試み・活動について	1
会長 鈴木 伸一	
禁漁前日、有終の美を飾るため、ヤマトイワナに会い にいった	3
吉田 孝	
今年出会った釣り	5
渡邊 好章	
ハゼを追いかけて	6
石井 美佐	
2024 年の釣りに関して	7
新井 勝之	
身の丈に合った老後のフィッシングスタイル	9
藤倉 聡	
JOFI に参加して	10
石井 幸彦	
世界チョイ釣り紀行:(中東・ヨルダン編)	10
杉村 拝	
外道大歓迎	11
鈴木 伸一	
漁業・魚類に関する法規について	12
石井 利明	
2024 年度活動実績	13
編集後記	14

今年度の新たな試み・活動について

会長 鈴木 伸一

今年度は釣りインストラクター活動も平常(コロナ禍以前)に戻り、会員各位におきましても何かとやり甲斐のあった年ではなかったでしょうか。一方で我が国においても、地球温暖化による気温上昇、海水温上昇、台風の大規模化などの影響が年々顕著になり、我々の活動にも大きな影響を与えるようになってきました。

今年度の新たな試み・活動を振り返ってみると、

①JOFI 東京では、内水面における活動の一環として、渡良瀬漁協に協力して釣り場環境保全活動を行っています。これも温暖化の影響でしょうか？近年、サケの遡上が激減してしまったと言うか、遡上は殆ど確認できていない状況が続いています。漁協でも今後も遡上の見込みはなさそうとの判断のようです。

何とかサケに代わる渡良瀬川を代表する天然魚はないものかと、そこで先ず白羽の矢が立ったのがカジカです。低水温の伏流水が湧き出ているところでもあるのでしょうか？渡良瀬川では中流域においても通年カジカが生息している場所があります。



産卵時期を考慮すると、この日を逃すと今年は実施できないとの判断で、1 月 14 日に急遽カジカの人工産卵場造成を試みました。何故か？当日は国交省の方も見学に見え、それが功を奏したのでしょうか？5 月 12 日(日)には、渡良瀬漁業組合、国土交通省渡良瀬河川事務所共催の「わたらせ水辺観察会」開催の運びとなりました。当日、漁協の方から人工産卵場を造成した辺りでは数多くのカジカを確認しているとのことをお聞

きて嬉しい限りです。いずれ、子供達にカジカ釣りに挑戦させてあげたいと思います。



また、大型魚や泳ぎが下手の魚種でも自由に遡上・降下ができるようにと、日付は前後しますが、3月16日にはその道の第一人者でいらっしゃる日本大学 安田陽一教授をお招きしての邑楽頭首工の魚道調査にも参加しました。現在、渡良瀬漁業から当魚道に関しての改善案を行政に提案しています。サクラマス等の遡上する本来の渡良瀬川を、是非とも実現させたいものです。

②昨年度末(2024.3.30)に実施したヤマメ発眼卵埋設用のウィットロック・バイバートボックス(Whitlock-Vibert Box)、および籠回収の際、「今まで活動を共にしてきた東京溪流釣り人倶楽部が解散し、今後は会としての活動ができなくなる。」旨の報告がありました。ご時世なのでしょうか？老舗の釣り団体が一つ、また一つと

消えていくのは何とも偲びがたいものです。

ヤマメやイワナは水系によって固有の遺伝子群が形成されており、他水系の魚を放流すると遺伝子が交雑し、それまでの固有遺伝子群を攪乱させることが分っています。幸いにも、奥多摩のヤマメ放流は平成10年以降、水産試験場の指導の下、多摩川固有の遺伝子群を保有するヤマメに限ることされてきています。そのような貴重な奥多摩のヤマメ(小河内漁協管轄)、今後は釣りインストラクターが中心となってこの責務を継続させていかねばならないと考えています。

折良く、小河内漁協、たまたま蜂谷川で活動を開始したばかりの「サクラマス・プロジェクト」と今後のヤマメ放流に関する協議する場を設けることができ(2024.9.26)、今後はお互い協力しあって奥多摩のヤマメ保全活動を実施していくこととなりました。「サクラマス・プロジェクト」の活動に参加される方は若い方が殆どで、それも釣りには無縁の方ばかりで安全面、魚や溪流の知識は殆ど持ち合わせていません。彼らに対しての教育は必須ですが、若いだけあって大変力強い限りです。リピーターの中には、いずれ釣りインストラクターに興味を持ってくれる方も出てくれるのではないかと淡い期待もしています。

米国でも釣場環境保全活動に参加されている方の中には釣りとは無縁の方も多くいらっしゃる聞いています。釣場環境保全に関しては、今後は釣り人だけでなく、そのような活動に興味のある方の参加も大いに期待したいものです。



残念ながら、今年度は「サクラマス・プロジェクト」の責任者に対し、実地で放流地点やバイバートボックスを利用した発眼卵放流に関するレクチャーまでは行ったものの、肝心の採卵に適した親魚が予定していた期日までに揃わず断念しました。小河内漁協管轄の河川での増殖事業は来春の稚魚放流に頼らざるを得ない状況です。こんなことも温暖化の影響でしょうか？

今後は専門家や行政、内水面漁連等の協力を得る

などして、枝沢を禁漁区にする、人工産卵場の造成など自然環境の変化に左右され難い増殖事業のやり方も考えていかないのかもしれない。

③ねりま遊遊スクールに関しては、今年度も7月21日と9月の8日の2度実施できました。幸運にもいずれも熱中症アラートの発表はなかったものの、熱中症対策には今まで以上に注意を払いました。先ずは、前回までは会員所有のビーチパラソル2基を日陰用に設置しましたが、今年度はJOFI東京の装備として、新たにビーチパラソル4基を購入し日陰用に備えました。また、現地には看護師の方に待機していただき、熱中症発症者や怪我人への対応も試みました。



その他、従来からもそうでしたが、釣りに関する法令・マナー、正しいライフジャケットの着用方法、危険回避などの座学も行いました。アンケート結果からも、丁寧な釣り指導はもちろんのこと、安全面に関しての配慮に対しても高い評価が得られました。

④昨年度、JOFI 東京初となる船釣り、かつ釣り具業界(ヤマシタ(株式会社ヤマリアコーポレーション)・アルファタックル(株式会社エイテック))とのコラボで開催した「入門者のためのライトアジスクール in 太田屋」、子供達が参加し易いようにと夏休み中に企画しましたが、残念ながら当日は熱中症アラートの発表などで多くの参加者を得ることができませんでした。今年度はその反省を踏まえて11月3日(日)に実施することにしました。

ところが、今年は11月になってからも本州まで影響を与えるような台風(21号)が発生し、温帯低気圧に変わった後も秋雨前線と一体化し、2日(土)朝にかけて九州の西に進んだ後東海、関東でも線状降水帯が発生するなど大きな影響を与えました。幸い当日は風も弱まり晴天ではありましたが、東京湾でも台風の余波を受けうねりが残り、船酔いされた方もいたほどでした。

このイベントの目的の一つには、内水面を含み、将来にわたって釣りを存続させていくためには、もはや行政

や漁協だけに任せるのではなく、釣り人、釣り業界など釣りに関わる者が一体となって資源管理、釣場環境保全に目を向けていくべきとの危機感から企画したものであります。閉会式では遊漁のルール・マナー、内水面の増殖事業に関しての座学も実施しました。

⑤コロナ禍においてはface to faceの役員会は控えてきましたが、9月より江東区文化センターの会議室を利用して役員会を再開することにしました。当面は3月に一度のペースで若洲クリーンナップ作戦後に行う予定です。もちろん緊急性を要す案件に対しては従来通り電磁的方法で対処することになります。なお、今年度第一回目の役員会では、総会時に承認いただいた役員候補に対しそれぞれの役職を決定いたしました。今後は会員各位に対しより一層のサービス向上に努めるつもりですのでご期待ください。



また、若洲クリーンナップ作戦実施後には、役員か否かを問わず、参加者同士でフリートーキングを実施しています。特にJOFI東京入会間もない方は、当釣りインストラクター連絡機構の活動に慣れるためにも若洲クリーンナップ作戦への参加よろしく願いいたします(今年度はイベント専用ビブスも作成しました)。

禁漁前日、有終の美を飾るため、ヤマトイワナに会いにいった

吉田 孝

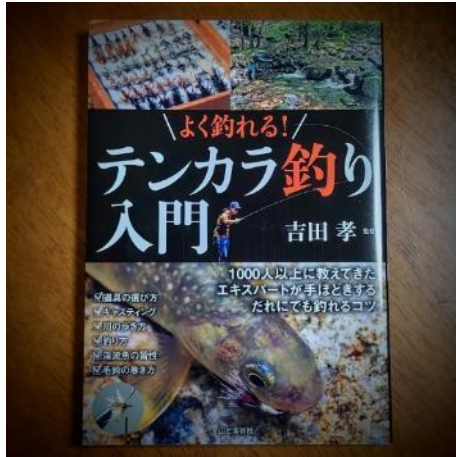
テンカラ釣りや毛バリ作りのインストラクターとして15年、延べ人数にすると2000人以上の人にこの釣りの説明をしてきた。

同じ年数、フィッシングライターとして、テンカラと毛バリの記事をWEBや雑誌に寄稿してきた。

昨年は山と溪谷社さんより「よく釣れる！テンカラ釣り

入門」というタイトルの書籍を出版していただいた。

今期も奥多摩で、月に一度開催している常設のテンカラ教室の他、都内、九州、南会津、丹沢と、各地の教室主催者からご依頼をいただき、テンカラ釣りの普及のため東奔西走している。



いくらテンカラ釣りに係わっているとはいえ、仕事の釣りには責任というものが生じる。

そこで時々、息抜きも兼ねて無責任なプライベートの釣りにいきたくなる。

サラリーマンとしての生業、釣り具メーカーのアドバイザー、毛バリの製作販売、そして執筆、これらの業務の隙間を見つけては、好きな源流釣りに出かけている。

教室では管理釣り場を使うことが多いが、私が個人的に好む溪流釣りのスタンスは、

『毛バリの釣りであることが絶対的な条件』

『里川より、そこにいっただけで癒される風景のある源流の釣り』

『なるべく放流魚のいない場所』

『数より型より、狙うのは在来の天然魚』

『在来の天然魚を狙っているため、種族保存の意味も含めて全てキャッチアンドリリースしている』

となっている。

今期最終のプライベート釣行に選んだ場所は、南アルプスの『野呂川』。

理由はひとつ、9月30日という禁漁直前の日に、希少種のヤマトイワナを釣って、有終の美を飾ろうと思ったからだ。

今回の釣りの野呂川は、過去の放流により、ニッコウイワナとのハイブリッドも釣れるようになってしまい、ヤマトイワナは希少種になってしまった。

広河原から下流は現在でも放流がされているようなので、ヤマトイワナを狙うなら、広河原から北沢方面、上流に向かって林道を歩いて入渓することになる。



以前は一泊以上の釣行だったが、最近は新しい道路も出来て、中央高速道路からのアクセスもよくなり、都内から日帰りでヤマトイワナに会える可能性があるありがたい場所となっている。

午前4時に芦安の駐車場に到着し、沢靴に履き替え準備を済ませた。

事前に予約を入れておいた乗り合いタクシーに乗り、広河原まで。

移動中はまだまだ暗かったので、車中でひと眠りした。

今回は同行者もいたので、初見の場所を調査(釣査)することになっていた。

タクシーを降りてから登山道に入り、付近の支流に入ってみたが、荒れた溪相と堰堤群に阻まれた場所のせいか、2時間程竿を出してみたが、足元から走る魚を見ることもなく、そこから退渓して本流の釣りに切り替えた。

本流の水温は支流程低くはなく、走る魚も確認できた。入渓地点は大岩が重なる大源流の様相だ。

同行者と離れるため、無線機を持った。

私は無線の免許を持っているが、免許のない人でも利用できる特小の無線機がある。

最近の無線機は、サイズ、性能、そして低価格とその進歩が目覚しく、周波数が合えば他社の製品と複数での通信も可能なので、見通しのよい溪流等では相互の連絡が容易にできる、実に便利な道具である。



ここから右岸と左岸、二手に分かれて釣り上がった。程なく同行者が小さなイワナを釣ったが、この魚はニッコウイワナだった。

しばらくすると、砂と岩が適度に配置され、流速も適度にある絶好のポイントと思われる場所が目の前に現れた。

しかし虫も飛んでいなくて、ライズも見られない。

水面にまで出てくる魚はいないと踏んで、頭に真鍮製のビーズを付けた毛バリをハリスに結んだ。

キャストイングの後、毛バリをしっかり沈めて流すこと数投、水面に貼り付けてあったラインが「ツツ」と引き込まれたので、すかさずアワセを入れるとそこそこの重さがあった。

やりとりの後ランディングネットに収まったのは、22センチのヤマトイワナだった。

あまり大きく育たないヤマトイワナの中では、それなりのサイズが釣れたので一安心。

目的の魚が釣れたので、一尾でも大満足、写真撮影をして速やかにリリースをした。

その後、同行者も魚を釣ったが、それもニッコウイワナで、この日に釣った魚の中では、唯一この魚だけがヤマトイワナだった。



今回はかなり早い時間に自宅を出発し、翌日に疲労を残さないよう早上がりの計画だったため、午後1時に納竿して、午後2時の乗り合いタクシーに乗車した。

途中食事をして、同行者を下し、帰宅したのが午後7時だった。

都内からでも日帰りでヤマトイワナに会えるありがたい場所。

いつまでもこの貴重な環境、そして魚が残ってくれることを祈った。



◎イワナの4亜種↓参考まで
<https://tsurihack.com/5509>

今年出会った釣り

渡邊 好章

今年 72 才の私は、釣好きの伯父の影響で物心付く頃から釣りをして来ました。

小さい頃は岸から(おかっぱり)のハゼ釣りや小川や池でマブナ釣り等していました。10 才位に成ると遊漁船に乗って鰻、鯖、カレイイシモチ、シロギス等東京湾岸の小物釣りをする様に成りました。その頃の船は木造で焼玉エンジンのいわゆるポンポン船でした。

中学生に成るとヘラブナにハマリ、高校生に成ってから黒鯛のヘチ釣りをやる様に成りました。

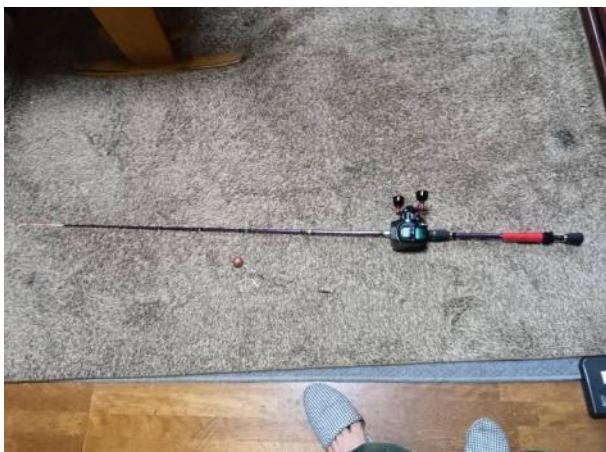
20 代後半からは磯から狙う石鯛釣りに出会い 40 代前半に磯で足を怪我して、再び船釣りに戻りました。今まで釣った事の無い魚を求めて深海の釣りを始めました。なかでも中深海のオニカサゴ釣りには夢中で打ち込みました。アカムツやアコウダイ、紅アコウダイ、キンメダイ等美味しい魚を釣る事が大好きです。

今年の春、釣友に誘われてトラフグのカットウ釣りをする事に成り、1週間前からスマホや本を見て自分なりに研究しました。仕掛けはナイロンやフロカーボン等のモノフィラメントは使わずにステンレスワイヤーを使って圧着端子でカシメて作るしっかりした物でした。何故それ程の物が必要かと言うとトラフグの口です、その口には強力なニッパの様な歯が有りステンレスワイヤーをも切ってしまう事も有ります。



釣り方は船長の指示した水深迄仕掛けを落とし、竿先を下に向けて水平迄シャクリ 2～3 秒待ってリールを 2 回転程巻きながら竿先を下に向け又水平迄シャクリ、この繰り返しを 20 回程したら指示された水深迄落とす。アタリは 2～3 秒待つ間に有ります。アワセは 30cm 程ギュッ（あくまでも感じ）とあわせませす。

常に竿にはテンションをかけながらリールを巻きます。カットウ針にはかえしが無いのでテンションが抜けるバレます。トラフグは時折針を外そうと上に向かって泳ぎます、そうなると負けない様にリールをますトラフグとの競走に成ります。私は電動リールなので早巻きで対応します。竿は小さなアタリもとらえられてしっかりアワセも出来る先調子がベストです。リールは PE1.5～2 号が 150m 巻いてあるベイトリールか小型電動リールが良いと思います。



ハゼを追いかけて

石井 美佐

私はハゼ釣りの盛んな地域に住んでいることもあり、小さなお子様から年配の方々まで楽しめるハゼ釣りが大好きです。ハゼ釣りをする時は、延べ竿やリール竿を使います。特に延べ竿では脈釣りで、手に伝わるプルプルしたアタリが癖になるんですよね。

年を越したヒネハゼが釣れる春頃、5 月にはハゼ釣りをスタート！

江東区の水路や東大島の旧中川など、数は釣れないものの釣れると 20 センチ近くのマハゼやウロハゼが釣れたりと面白いですね。夏のデキハゼと違ってアタリはとても静かですが、これを逃さず掛けることができると強い引きがまた楽しいです。



夏にはハゼも育ってきて、元気いっぱいのデキハゼが釣れ始めます。数もいっぱい釣れることもあって、SNS で知り合ったハゼ釣り仲間達と早掛け、数釣り、サイズなどを競うこともあり、この緊張感もドキドキしちゃいます(笑)。

また、釣りの知識や情報交換などの交流が持てるのは本当にありがたいです。

釣行後は清掃も忘れずに行っています。

釣り人が居れば水辺は奇麗になる！！

そう思って頂けたらないつも思っています。

今年は初めて JOFI のハゼ釣り教室にも参加させて頂き、初心者への釣りの楽しさを伝える喜びも得ることができました。参加者がボラを掛けた時の笑顔はこちらも笑顔になれます。釣り人にとってボラは外道な事が多いですが、初心者にとってはハゼより大きく引きも強いこともあり、とても喜んでいました。



また、鈴木会長から「自分の命は自分で守る」というお話があり、水辺での危険についても理解していただけたと思います。緊張もしましたが JOFI の先輩方のアドバイスなどで無事に終えることができて良かったです。

秋になるとハゼも大きくなり河口の方では見事に大き

く育ったハゼが沢山釣れます。夏と違い数は釣れませんが大きいハゼは釣りごたえがあります。天ぷらやお刺身で食べるのは楽しみのひとつですね。

お蕎麦にハゼの天ぷら、最高で幸せです…



冬になるとハゼも産卵の為に深場に落ちてゆきハゼ釣りシーズンも終了です。

針や仕掛けを結び直したり、竿のメンテナンスをしながら次の春を待ちます。

今年は特に暑かったせいか、ハゼもいつもより成長が遅かった様に思いました。

来年はどうなるのか？

またハゼを追いかけてみたいですね。

2024 年の釣りに関して

新井 勝之

今年の1月に行われた「釣りインストラクター・マスター研修会」で議題になった、日本釣振興会が作成した「淡水魚減少問題特集」を取り上げての講習でしたが、その中で、一番の問題点(原因)が農薬散布が著しく関与しているレポートが有りましたが、以前から、作物散布に使われる農薬とかゴルフ場等に、グリーン芝やコースの雑草除去に使われたものが、雨などにより河川に流れて、「生態系に悪影響を与えているのではなか？」と以前から危惧していましたが、今回のレポートでハッキリした気がしました。効き目の強い殺虫剤散布に関しては農家でさえ控える人がいる話を聞きまし、海外(欧米)では人体に影響するものに対してデータが出るたびに細かく原因物質規制が更新されているのにも関わらず、日本政府は認可しているのは国民の健康被害報告がないとか業者からの献金を受けている、そんな事を考えるのは私だけでしょうか？実際

に昆虫類、特にミツバチの大幅の減少、魚類の減少もあるので、もっと真摯に考えてほしいです。

今年はフライフィッシングでは、北海道遠征釣りは大型のニジマス釣りを目指し、フライを工夫して、大型のテロストリア(昆虫系)を使い釣れたので、同じ釣りをする方の参考になれば幸いです。

使用する針は G 社の S10-B とか S10-3F の 6 番等が向いていると思います、下巻きをシャンクの直線部分から少しカーブした所で止め、ボディになるピーcockハールを 4 本位と解れ防止にワイヤー(細目)を巻き付け、ボディを太くすると浮力 UP にミラーマツト(発砲ポリエチレンシート)を厚み 0.5 ミリ、幅 3~4 ミリ(使用する長さよりも長めに切り取り、油性マジック黒塗した物を自作)をアイの少し手前まで巻き戻し、3 回から 4 回重ねて、好みの大きさにして巻き付ける、その上にピーcockハール隙間なく巻き付け、さらにワイヤーを 4 巻きくらいして、ずれないようにする。次にアイ近くにフェザントールのブラックを 5、6 本くらいで斜め後ろ向きになるように巻き付けたら、今度はウイングの下地にピーcockハールを 4 本位ボディより長めにつけ、さらに CDC を 2 枚巻き、さらにcockネックの大きめで同じ大きさを 2 枚取り、左右に分けて取り付けして、フニッシュで巻き留め、接着剤を塗り、合の手枚の下側に UV レジンを盛りつけ、ブラックライトで固めて完成です。パターンとしては好みでアレンジしてください。また、ボディに発砲スチロールを削り、黒の生地で包み込んだ物をボディにすると大き目のテロストリアになります。



6 月の道東での釣りでは、50 から 60 センチクラスのニジマスが「ボッコ」と音を立てて、捕食して楽しませてくれました。



身の丈に合った老後のフィッシングスタイル

藤倉 聡

最近ふっと、自分はいつまで現在の釣りを楽しむことができるのかと考えてしまった。自分の理想的な老後のフィッシングスタイルを考えてみた。

・学生時代から現在のフィッシングスタイル

釣りは子供の頃の川釣り、主にハヤやヤマベ・コイやフナにはじまり、次第に海釣りへと移行していった。学生時代は、近場のポイントには徒歩で、それ以外の釣行は電車とバスで行くことが多かったので、重い荷物の持ち運びや、駅や停留所からポイントまでの移動などが大変なことも多々あり、早く免許を取って車で釣りに行きたいと思っていた。

現在主に海釣りをメインに行っており、乗合船を利用した沖釣りやボート釣りへの釣行回数が多いが、堤防や砂浜からの釣りは学生時代から欠かしていない。最近では鈴木会長から教わったフライフィッシングも釣行ローテーションの仲間入りをしてさらに釣りの幅が広がった。

東京在住と言うこともあり、以前は東京湾や相模湾、外房の船宿へ通うことが多かったが、妻と釣りを楽しむようになってからは、彼女の実家のある沼津（駿河湾）が、今ではホームグラウンドとなっている。ちなみに、幼いころからの夢がかない、釣行は車での移動が主流となっている。

・老後のフィッシングスタイル

それでは、老後も現在と同じようなスタイルで釣りを続けられるのかと、自問自答した時に当然ながら答えはNO！と行きついた。

まずやはり一番のネックは車での釣行だろう。年齢がキーポイントとなり車釣行はあきらめて、学生時代のように電車やバスで釣行できる釣り場選びを重視することになりそうだ。

乗合船の早朝便などは素泊まりなどを利用するのも一手だと思う。または午後船も捨てがたい。船宿によっては駅からの送迎などのサービスも行っているところがあるのでそちらを積極的に利用したいとも思っている。

また、自宅から近い船宿に通うというのも考えている。深川「吉野屋」や「富士見」といった船宿は徒歩圏内なので都合が良い。たまには前述したように素泊まり等を利用した遠征釣行も良いかと思うが、やはり普段使いでは「身の丈に合った」近場のエリアを選びたい。

残念ながら、大好きなボート釣りも諦めざるを得ないのかもと思ってしまう。特にアンカーを入れての海での手漕ぎボート釣りは今でも体力の消耗が激しい。

堤防釣り等でも、車でなくてはいけないポイントという

ポイントはあるにはあるが、電車などで行ける魅力的なポイントも多くある。その時は童心に戻って電車釣行を楽しみたい。少年時代と違い飲酒が可能なことでもあるので、ポジティブに考えよう。

また、我が家はハゼ釣りを始め、クロダイやシーバス釣りの1級ポイントの運河に囲まれており、アクセスは徒歩圏内なのでこちらの釣りを専門的に行うのも楽しそう。また、近場のエリアとして欠かせないのは公園の池や釣り堀りだと思う。



自分はこのような身近で釣りができるエリアが好きでよく行くが、老後は今まで以上に活用したい。妻の沼津の実家に移住して、のんびり釣りをするのも魅力的だ。



まとめ

老後のフィッシングスタイルとして一番大切なことは、ターゲットやフィッシングエリアに固執することなく、身の丈に合った釣りを楽しむことだということに行き着いた。そして最後のポイント「三途の川」で釣り納めをしたい！きっと電車や車も必要ないだろうから、なにより身の丈にあっているはずだ。

JOFI に参加して

石井 幸彦

私が住んでいる江戸川区は、荒川(中川)・旧江戸川に挟まれ、南側は海に面しています。

川の水を引き入れた親水公園も数多くあり、区内ほとんどの川沿いは遊歩道になっていたり、水辺に親しみやすい地域です。

休日には多くの家族連れや、地元のベテラン釣り師がハゼ釣りをしています。夜にはぶっ込み釣りでウナギ狙いの人も多く見られます。海に面した葛西浜公園でもハゼ釣り、ぶっ込み釣りなどが人気のようです。

私の家からも徒歩・自転車で往ける範囲にたくさんの釣り場があり、休日になると釣り竿を持って出掛けています。小さな水路ではハゼや手長エビなどの小物釣り、荒川・旧江戸川の河口域ではスズキやクロダイをルアーで狙います。河口域でも海に近くなるとエサ釣りでイシモチなどが釣れたりすることもあります。

このように近所の釣り場を見る機会が多くあるのですが、たまに気になるのが釣り人のマナー、モラルです。

釣り餌のパッケージ、釣り糸や仕掛け、食べ物のゴミ・ペットボトルなど、ほぼ必ず落ちています。ゴミだけでなく、荷物を広げて場所を占拠していたり、後から来た人が無理に割り込むなど、長年言われている釣り場の問題を目の当たりにします。

コロナ禍での密にならないレジャーとして多くの人が釣りを始めたと言われています。SNS 等、インターネットで釣り場の紹介や釣果情報なども多く投稿されています。そのような情報を参考に釣り人が増えるのは喜ばしいことですが、上記のような問題点も併せて語られるようになりました。

長い間、言われているのになかなか改善されているとは感じません。釣りについてのルールやマナーを学ぶという機会がないのだと思います。車の免許を取るときには教習所で、運転技術だけでなく道路交通法やマナー、車の危険性など色々なことが授業の中に含まれています。同じような機会が釣りを始める際にはほとんどありません。釣りの分野でもこのように学ぶ機会、場所が必要だと感じます。

JOFI 他、釣りに関する団体では初心者向けの釣り教室などのイベントも行われています。魚を釣る楽しさを知ってもらうことが大きな目的になりますが、ルール・マナーに関して学ぶこともイベントスケジュールの中にもっと増えると良いなと思います。釣りは準備から後片付けまで時間の掛かる遊びなので、講義的な時間をとることはなかなか難しいところもあります。イベント時に配布できるようなルール・マナーについて書かれた小冊子や、ホームページ等で呼びかけることも必要になってくると思います。

若洲海浜公園で継続して行われている清掃活動も JOFI 会員だけではなく、一般の方達も参加しやすいようなイベントになると良いと思います。釣り場の環境保全についても考えてもらえるキッカケになるのではないのでしょうか。

JOFI の活動はまだまだ規模も小さく一般的な認知度は低いところもありますが、清掃活動など地道に続けていくしかありません。他の釣り関係団体とも連携・協力しながら継続していけば、少しずつでも釣りを取り巻く環境は良くなっていくと思います。私は今年度からの参加なので JOFI での活動経験も少なく知識不足・力不足ではありますが、多くの人に釣りの楽しさ、水辺の大切さを伝えていけるよう活動していきます。

世界チョイ釣り紀行:(中東・ヨルダン編)

杉村 拝

本年よりインストラクターとなりました、杉村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんヨルダンという国をご存じでしょうか？某社のシェウマイの CM で「ヨルダンの首都はアンマンだけどアンマンにあんまん売ってない〜♪」という歌がありますが、その「ヨルダン」です。映画好きの方であれば「アラビアのロレンス」「スターウォーズ/スカイウォーカーの夜明け」「アラジン(実写版)」の撮影に使われた「ワディ・ラム砂漠」や、「インディー・ジョーンズ/最後の聖戦」で登場する「ペトラ遺跡」をご存じの方がいらっしゃるかもしれません。北海道ほどの広さの国土に、東京都よりちょっと少ない約 1100 万人が暮らしています。イラク、シリア、サウジアラビア、そして死海を挟んでパレスチナ、イスラエルといった国々と国境を接していますが、近隣国とは違い、大変平和な王国です。現在のアブドゥラ国王は大変な親日家で、頻繁に日本を訪問しております。平和な反面、大きな悩みがあります。それは「水」です。水源は、国内を流れるごくわずかな河川と、地下にある化石地下水しかなく、首都アンマンでさえ、給水は週 50 時間程度しか行われないため、タンクに水を溜めて大切に利用しています。

前置きが長くなりましたが、水不足に悩むヨルダンでも川がある以上、魚が棲み、釣人居て、釣具屋も 1 軒だけですが存在します(銃砲店に併設)。そんなヨルダンの夏の週末(イスラム教国の週末は金曜日と土曜日)の早朝、首都アンマン近郊の町に住む現地人の同僚宅に赴き、パン屋に寄って釣り餌となるパン生地を分けてもらい(人間用には焼いたパンを購入)、マダバという町の近郊にある溪谷に向かいます。日本から持ち込んだ延べ竿にウキと針というシンプルな仕掛けで狙うは 30 センチ近いウグイ。そして、「今日食べる分だけ釣る」が鉄則です。ですので 7 時頃から釣り始めますが、10 時半過ぎには納竿して昼食の準備を始めることになります。ヨルダンでのウグイ釣りのコツは、とにかく声を出

さないことと魚に姿を見せないことです。姿勢を低くして葦の茂みに近づき、そっと水面に仕掛けを振り入れます。釣り始めの 30 分程は大型が掛かりますが、すぐにスレてきて小型しか釣れなくなるため、こまめな場所移動も必要です。



十分な数のウグイが揃ったら、次は魚の下処理と薪集めです。石を集めて簡易なかまどを作って薪で火を起し、油多めのフライパンに、同僚秘伝の特製スパイスをたっぷりとまぶしたウグイを投入。きつね色に揚げれば宴のはじまりです。ひと口大にちぎった平たい種無しパンでアツアツのウグイの身をほぐして包んで口に頬張ります。う、うまい！！渓谷とは言え流れがほとんど



ないため、脂の乗ったその身は柔らかく肉厚で、スパイスと相まって食が進みます。



帰国の際、同僚から例の「特製スパイス」を譲り受け、日本で何度となく使ってみましたが、「あの時のあの味」を再現することはできないまま。

もう一度、あの場所に戻りたい。そんなヨルダンでの釣りの思い出です。

外道大歓迎

鈴木 伸一

私の釣りは外道大歓迎と言うか、天然魚でありさえすれば何が釣れても嬉しいといった方が言い得ているかもしれない。特にフライフィッシングであれば肉食性の魚は勿論のこと、雑食性のものであっても大抵のものは毛バリ釣りの対象魚となるものである。

これまでも、本命のサケ・マス類の他、アユ、ワカサギ、ペヘレイ、ブルーギル、ラージマウスバス、スモールマウスバス、コイ、ギンブナ、ヘラブナ、ニゴイ、ワタカ、マルタ、ウグイ、エゾウグイ、アブラハヤ、オイカワ、カワムツ、ハス、モツゴ、モロコ、ヤリタナゴ、カネヒラ、チチブ、カワヨシノボリ、マハゼ、ボウズハゼ、ナマズ、チャネルキャットフィッシュ、ボラ、シーバス、……と、中には狙って釣ったものも含むが、釣れた外道は実に多岐にわたる。日本は極めて魚種の豊富な国である。全国を回れば、淡水魚だけでもフライフィッシングの対象魚は 100 種を超えるかもしれない。



マルタ専門に狙うのであれば、体長 60cm 超えであろうとバランスの良いタックルを使用すれば 6X(0.6 号)の細いティペット(ハリス)でも十分楽しめるものである。しかしながら、マルタが遡上してくるとその卵を狙ってコイやニゴイなども追隨して移動する。



それに、マルタを追って移動するものは何もコイやニゴイなどの魚類ばかりではない。カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、ダイサギ、コサギと言った鳥たちもおこぼれを狙ってマルタと共に移動する。マルタの遡上時期、マルタがどの辺にいるかはそのような鳥たちの居場所は重要な手がかりとなる。

柳瀬川におけるマルタ釣りがやっかいなのは、同じ仕掛けで外道にときとして体長が 80cm 超える巨大なコイや、70cm 近いニゴイ、45cm ほどのスモールマウスバス、ナマズ、小は体長 12~15cm 程のウグイやオイカワ、カワムツ、イナッコといったものまでも実に多彩にハリ掛かりすることにある。体長が 80cm ものコイが掛ければ、6X のような細糸ではいとも簡単にラインブレイクし

てしまうのが落ちである。そうかと言って、80cm 級の大ゴイともなれば意地でもランディングしたいのも釣師の性ではではないであろうか？



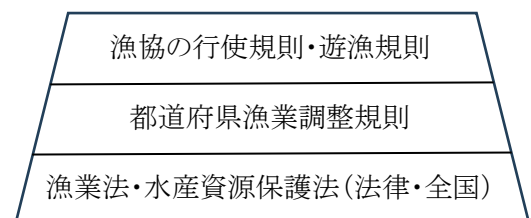
細糸でマルタ釣りのハラハラドキドキを楽しむか？外道でも大ゴイのランディングを優先するか？と問われれば私も後者を選んでしまう。そのため、私のマルタ釣りでは、ハリスは 3X(1.5 号)もの太糸を使うのが常である(ハリスを 6X まで落とせばマルタの釣果は一気に倍増するのであるが...)。

漁業・魚類に関する法規について

石井 利明

少し前に、警察署の生活課から「漁業や魚に関する法律を教えて欲しい」との連絡があり、資料を作りました。釣りをする方々には、法律に関する最低限の知識は知っていて欲しいので簡単に紹介します。

“釣り”が、他の遊びと違う所は法律や規則で罰せられる、という所です。野球やサッカーでルールを破っても警察に捕まる事はありませんが、釣りは違います。法律や調整規則を犯せば、刑務所に入れられる、又は、罰金が科されます。法規の構造は、下記のような 3 階建てになります。科されるのは簡単な図にすると下



1. 法律

漁業法と水産資源保護法

漁業法とは

漁場の総合的な利用による漁業の発展を目的とす

る法律です。漁業権、漁業の許可、漁業調整委員会等について規定しています。

水産資源保護法とは

この法律は、水産資源の保護培養を図り、且つ、その効果を将来に渡って維持することにより、漁業の発展に寄与することを目的としています。

2. 都道府県漁業調整規則

都道府県知事は、漁業法(昭和 24 年法律第 267 号)第 119 条第2項及び水産資源保護法(昭和 26 年法律第 313 号)第 4 条の規定に基づき、農林水産大臣の認可を受けて漁業調整のため、規則(漁業調整規則)を定めることができます。

水産庁においては、全国統一的に一定の水準を確保するため、都道府県漁業調整規則例を作成しています。

※1、2 の違反者には、罰則規定があります(下記参照)。

3. 各漁業組合の行使規則・遊漁規則

行使規則とは

漁協組合員に課される規則、過怠金あり。

遊漁規則とは

遊漁者(釣り人)に課される規則。

主な罰則等(調整規則は私の住む栃木県による)

法令等	条項	違反行為	懲役	罰金
水産資源保護法	第5条	爆発物を使用した水産動植物の採捕	3年	200万円
	第7条	麻痺又は死なせる有害物質を使用した水産動植物の採捕	3年	200万円
	第28条	内水面におけるさけの採捕	1年	50万円
漁業法	第195条	漁業権又は組合員行使権を侵害	—	100万円
栃木県漁業調整規則	第3条	知事許可漁業の許可違反(禁止漁具又は漁法による採捕)	6月	10万円
	第22条	禁止期間の違反	6月	10万円
	第23条	全長制限等の違反	6月	10万円
	第24条	漁具漁法の制限等の違反	6月	10万円
	第25条	漁具漁法及び期間に関する違反	6月	10万円
	第26条	禁止区域の違反	6月	10万円
	第27条	禁止区域・禁止期間の違反	6月	10万円
	第28条	遊河魚類の通路遮断して行う採捕制限の違反	6月	10万円
	第29条第1項	有害物質の遺棄漏せつの禁止の違反	6月	10万円
	第9条	知事許可漁業の条件違反	6月	10万円
	第13条第2項	適格性の喪失等による許可取消者の漁業に関する法令違反	6月	10万円
	第14条第1項	公益上の必要による許可取消者の漁業に関する法令違反	6月	10万円
	第29条第2項	有害物質の除去に必要な設備設置等に対する命令違反	6月	10万円

漁協に従事する立場で言えば、各漁協の行使規則や遊漁規則をどのように順守させるかが一番の悩みどころなのですが、行政の力を借り警察署にも理解してもらい、現実的で実効的な対応が出来れば、と考えています。

2024 年度活動実績

日付	活動実績
6/15(土)	親子釣り教室 若洲シーサイドグループ、 日釣振、首都圏釣りインストラクター
7/13(土)	レディース釣り教室 若洲シーサイドグループ、 日釣振、首都圏釣りインストラクター
7/21(日) 9/8(日)	ねりま遊遊スクール(子供ハゼ釣り教室) 練馬区教育委員会委託
8/25(日)	女性・少年少女ハゼ釣り大会 全磯連関東支部に協力参加
9/14(土)	アウトドアフィッシングスクール in 若洲 若洲シーサイドパークグループ協賛
10/8(火)	ニジマス釣り体験教室 日釣振に協力参加
10/12(土)	初心者ファミリー釣り教室 若洲シーサイドパークグループ・(公財)日釣振東京都支部に協力参加
11/3(日)	LT アジ釣り教室 YAMASHITA 、 alpha tackle に協力参加
11/2(土)	ヤマメ発眼卵 BOX 埋設 JOFI 西東京に協力参加
11/16・17(土・日)	2022 年度全釣り協公認釣りインストラクター資格講習・試験 講師・スタッフを派遣
11/30・12/1(土・日)	フライ・テンカラ釣り教室
12/7・8(土・日)	焚火クラブ 2024 江東区立若洲公園キャンプ場、焚火クラブ実行委員会に協力参加
1/17～1/19(金・土・日)	釣りフェスティバル 2025 JOFI 神奈川に協力参加(ニジマス釣りのサポート)、JOFI の活動紹介 等
1/18(土)	釣りインストラクター・マスター研修会 全釣り協主催

日付	活動実績
3/29(土)	ヤマメ発眼卵 BOX 回収& 稚魚放流 JOFI 西東京に協力参加
毎月第 2 土曜日	釣り場クリーンアップ作戦 若洲海浜公園釣り場における釣り場クリーンアップ、及び釣り指導

編集後記

今回の会報も例年同様、特にテーマを決めずに執筆者の自由なテーマで原稿作成をお願いしました。

物価上昇から来る経済不安の中、個人のお財布事情も厳しい状況下での釣りライフになったのではないかと思います。

執筆者の皆様、お忙しい中での会報発行にご協力頂きまして有難うございました。

本会報誌は皆様からの寄稿の様子を見て、適宜特集を組んで発行していきたいと考えています。

原稿は随時募集しておりますので、会員名簿を参照し広報部宛に電子メールや郵送などでお寄せ下さい。

原稿の集まり具合によっては期限を設けて執筆依頼をすることもありますので、その際はご協力をお願い致します。(広報部)

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌 第 13 号暫定版

発行日 2025 年(令和 7 年)1 月 5 日

発行 JOFI 東京
(一社)全日本釣り団体協議会 公認
東京都釣りインストラクター連絡機構

編集 同上(広報部)

URL <https://jofi-tokyo.org/>

